



## 金のにわとり (青墓校区に伝わる民話から)



昼飯大塚古墳のある青墓校区は伝説や民話が数多く残されているところですが。そのいくつかは、青墓小学校が編集発行した「ふるさと青墓」という冊子に収録され、読み継がれ、語り継がれてきています。

その中から、お正月にちなんで、一月一日の朝早く、金のにわたりの声を聞こうとして早起きの習慣が付き、村中の人が金持ちになったという「金のにわとり」の話を紹介しましょう。

村で一番早起きのよしべえさんは、いつも真っ暗なうちから、百姓の仕事をしていた。だから腕は丸太のように太く、体は日に焼けて黒々し、病気をしたことがありませんでした。村の人たちが起きる頃には自分の仕事は終わってしまい、村の道をなおしたり、川をきれいにしたりして、村の人のために尽くしました。村の人たちからは

「よしべえさん。よしべえさん。」

と大変慕われていました。

正月がきました。手が凍るような寒い朝でしたが、よしべえさんは暗いうちに起きて、榎戸の西外れにある御鍬神社へお参りに行きました。お参りをしている

と、

「コケッコ。ケッコ。ケッコ。」

と鳥の鳴き声が西の方から聞こえてきました。初めて聞くめずらしい声に、よしべえさんは大変驚き、じっと聞いていました。よしべえさんには、『けっこうなことだ。もつと、もつとつづけなさい』と、鳴いているように聞こえました。暗闇の中でじいーと見つめると、ぴかぴかと光る鳥のようです。すると羽を広げて大きな口をあけてまた鳴きました。鳥はさらに美しく輝いてはつきりと見えませんでした。金のにわとりです。よしべえさんは音を立てないようにそつと近づこうとしました。金のにわとりは、いつの間にか、すうーと消えていなくなっていました。よしべえさんは、

「しまったー。」

とがっかりしましたが、いそいで鳥のと

ころへいってみました。そこには岩のよう大きな石があるだけでした。

家に帰ったよしべえさんは、金のにわたりのことを村の人に話しました。村の人は誰も本気にしませんでした。その年、よしべえさんは、いいことばかり続きませんでした。

次の年の一月一日、よしべえさんにはにわたりの声を聞きました。こんどは、村の中にもにわたりの声を聞いたという人が出てきました。この声を聞いた人たちは、その年はいいことばかり続きませんでした。

あくる年から、一月一日には村の人たちは、朝早く起きて金のにわたりの声を聞こうと待っていたそうです。金のにわたりのため、村の人たちは早起きの習慣が付きました。そのうち、村中の人たちがお金持ちになったということです。

「ふるさと青墓」に収録されているのは榎戸町に伝わる話ですが、青墓小学校に掲示されている「ふるさと探検マップ」には、金の鶏伝説地として、このほかに青墓町の岩崎神社、昼飯町の東中尾古墳群、車塚古墳の近くが示されています。

金のにわとりが鳴いていた岩のよう大きな石は露出した古墳の石室の天井石であったのかも知れません。

昼飯大塚古墳の保存整備状況を見ていただく機会に、金の鶏伝説地を巡って、民話のロマンにふれていただければいかがでしょうか。